

アスチルベの栽培

(性状)

東アジアや北アフリカを原産とする多年草で耐寒性が強く半日陰の場所に良く育つ。特にヨーロッパで交雑育種が進んでおり、近年ではより大きい品種や観賞価値が高い色彩の品種が増えてきている。

(苗・ポット上げ)

輸入裸苗が3月下旬頃入荷する（納品は3月末～4月上旬）。

定植までポット上げ管理を行う。ポットサイズは12～15cmを使用する。

急激に温度を上げずゆっくりと自然の気温上昇に合わせて管理する。

灌水は気温が低く芽が動いていない状況ではあまり必要としない（加湿にご注意）。

気温上昇、植物の活動が見られるようになれば増やしていく。

(定植)

露地栽培が一般的。排水の良いところを選ぶ。

pH6.0～6.2 EC0.3以下を目安とする。

1条植え：ベッド幅60cm 通路幅60cm 株間30cm

2条植え：ベッド幅100cm 通路幅60cm 株間50cm千鳥

元肥は控えめにして花茎が軟弱にならないようにする。

例) 窒素成分量5kg / 10a

(管理)

定植1年目は株養成となる。2年目以降出荷可能。

干ばつ時には灌水を行うと良い。またベラボンやキビ殻などのマルチングも良い。

(出荷)

穂の半分強が開いた頃に収穫する。収穫時期が水揚げの成否に大きく影響するので留意。

水揚げ後に萎れないのが最低条件となる。

輸送には湿式立て箱を使用することが基本となる。

(病気・害虫)

灰色カビ病、黒斑病、白絹病、アブラムシ、ハダニ、ヨトウムシ、ナメクジ など